福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年　3 月　10 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　170-0004

所在地　東京都豊島区北大塚２－２４－５　ｽﾃｰｼｮﾝﾌﾛﾝﾄﾀﾜｰ2F

評価機関名　株式会社　地域計画連合

認証評価機関番号　機構　02　―　002

電話番号　03-5974-2021

代表者氏名　江田　隆三　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	大森西保育園			
事業所連絡先	〒	143-0015		
	所在地	東京都大田区大森西2丁目20番17号		
	TEL	03-3765-8256		
事業所代表者氏名	菊地　布実子			
契約日	2024 年　4 月　1 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2024 年　6 月　20 日			
利用者調査結果報告日	2024 年　9 月　18 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年　6 月　20 日			
自己評価結果報告日	2024 年　9 月　18 日			
訪問調査日	2024 年　9 月　25 日			
評価合議日	2024 年　9 月　25 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年　3 月　7 日

事業者代表者氏名　菊地　布実子　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和6年度

《事業所名: 大森西保育園》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1）くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る。 2）健康・安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。 3）人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てるとともに、自主・協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。 4）こどもだけでなく、保護者の状況も理解し、援助することで信頼関係を築き、共に子育てし合う関係を作っていく。 5）拠点園として近隣の保育施設と連携を図り、地域の状況を把握する。
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・こどもの人権を尊重し、一人一人の発達、特徴を十分に把握し、それに応じた保育ができる職員。 ・保育実践や研修を通じて保育に関する知識や専門性を高め、保育の質の向上を図る職員。 ・公立保育園の役割を理解し、園内外の支援が行える職員。 ・他の職員と連携を図りながら協力して仕事を進めることができる職員。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・人間形成の基礎を培う極めて重要な乳幼児期に関わる仕事であることに誇りと責任を持ち、専門的な知識、技術のもと保育にあたってほしい。 ・保育を取り巻く社会情勢、保護者・家庭の状況を理解しながら保護者に対応してほしい。 ・区の職員、福祉サービスに携わる職員として、園内だけでなく大田のこども達の健やかな成長を支える役割があるという意識を持ってほしい。

《事業所名: 大森西保育園》

調査対象	2024年6月20日現在の施設の利用者(保護者) 105世帯(利用者総数 126名)を対象とした。
調査方法	WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数	126
利用者家族総数(世帯)	105
共通評価項目による調査対象者数	105
共通評価項目による調査の有効回答者数	74
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	70.5

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(92%、68人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。
問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(99%、73人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
(97%、72人)

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか
(96%、71人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	73	0	1	0
自分の意見や考えを言葉で表現できるようになった。 入園後、言葉や身体能力の向上を感じます。お友達や先生との関わり合いにより成長していることが、家庭の様子から感じられています。 園の中で先生に教えて貰ったこと、お友達がやっていたことなど沢山の刺激を受けていて、それが成長に繋がっていると思う。 などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	72	2	0	0
保育園での出来事を子供から「楽しかった」と話してくれるので、興味のある活動が出来ているのだと感じます。 家ではあまり遊ばないブロックやパズルなども保育園では集中して取り組んでいるようで、なにかスイッチが切り替わっているようです。 普段から色々な事に興味があり、家庭でできないことを経験していると思う。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	69	5	0	0
イヤイヤ期で偏食ですが、保育園の食事は栄養バランスも考えられている上に子どももほぼ完食しているので助かっています。 季節の野菜、果物などバランスよく提供してもらっている。 家であんまり食べなかったり、偏った食べ物を食べても、保育園で食べてるからと母の気持ちも楽になる。 いつも手作りで、栄養のある食事が提供されていると思う。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	54	18	2	0
自然との関わりは散歩や遠足など多く提供していただいていると感じますが 社会との関わりは感じないため上記を選択しました。 園庭が充実していて、虫や植物に触れる機会があり、都内の保育園としては自然環境が良いと思います。 植物を育てたり野菜の栽培などなかなかできない良い経験ができてると思います。また、異年齢のお友だちと触れ合う機会があるからか、園外でも小さい子におもちゃを譲る姿も見られました。 などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	60	14	0	0
延長保育について、当日の朝でも空きがあれば受け入れていただけるので助かっています。 送迎が遅れると連絡をすると、快く対応してくださいます。 本当に助かっています。感謝しかないです。 などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	63	11	0	0
至るところに子供の怪我を防ぐ工夫を見かけるので対策されているのだと感じます。 全ての場面はわかりませんが、階段や玄関などに工夫がされていると思います。 安全対策には細かく注意してくれている印象がある。 などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	59	12	3	0
前もって教えてくれる為ありがたいです。 保護者会も週末のその後の予定が入っても行ける時間帯になっていると感じました。 早い段階で日程の連絡があるので調整しやすいです。 などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	67	5	2	0
毎日の連絡帳に加えて、日頃からやりとりできるのが本当に有り難いです。 主に個人面談で相談をすることができ心強く感じています。 先生が親しみやすく子供のことをすごく考えてくれているのが伝わってきます。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	67	7	0	0
いつも掃除して下さる姿を見ているのでとても安心しております。 毎日掃除されていて、清潔に保ってくださっていると感じます。 お迎えに行くと係の人がお掃除してくれています。 などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	65	5	4	0
不快感を感じたことは無いです。 といった意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	62	10	2	0
クラスに看護師もついていてくれて安心です。 以前子供がおもちゃのかけらを口にしてしまった際に手厚く対応してくれました。ありがとうございました。 何かあれば連絡をくださったり、初期手当をしっかりやってくださいます。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	54	19	1	0
その場の対応は見たことがないので分かりませんが、どんなことがあってどんな対応をしたか説明してくださるので信頼しています。 大きな喧嘩になる前に止めてくれたり、中立して子どもの話を聞いてくださっています。 などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	71	2	1	0
降園の際、子どもが先生にぎゅーっと抱きつく姿をみる度に、保育園で愛情たっぷりに育てていただいていると感じる。 子どもの気持ちを汲み取ろうとしてくださっています。 連絡帳のコメントがいつも丁寧で嬉しいです。 などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	65	9	0	0
十分配慮してくださっていると感じます。 といった意見があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	63	10	0	1
保護者会の時に主に写真で説明いただけるのでどんな遊びをしているのかわかります。 連絡帳に様子を丁寧に記入いただいています。 ちょっとした出来事でも教えてくださいます。 などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	63	9	2	0
十分説明してくださっていると感じます。 といった意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	50	19	5	0
十分説明してくださっていると感じます。 掲示してあります。 今のところそう言った状況はありませんが、相談窓口のパンフレットがあった気がします。 などの意見があった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1
	リーダーシップと意思決定
	サブカテゴリー1（1-1）
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	◯ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	◯ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	◯ 非該当

カテゴリー1の講評

全職員に配付している業務マニュアルの読み合わせで園の目指すことの理解を深めている

大森西保育園業務マニュアル(職員版)は、今年度の活動に必要な項目を纏めてファイル化し職員全員(非常勤保育者も含めて)に配付している。内容は年度毎に更新され最新化し年度当初の職員会議で、基本理念や園目標、職員心得、今年度の事業計画を読み合わせして園が目指していることの理解を深めている。保護者に向けては入園オリエンテーションの際に重要事項説明書の園目標や基本理念などをプレゼンソフトで作成し説明した上で配布している。また玄関には、保育目標、保育理念、保育方針、重要事項説明書も掲示して誰にでも分かるようにしている。

園長・副園長は園の課題解決に向けてプロジェクトチームを作り園運営をリードしている

年度当初の職員会議では、経営層の役割や意思決定会議を明確化して全員に周知して共通理解をしている。さらに今年度の事業計画の内容を説明するとともに園長としての考えや心構えを伝えている。園長、副園長は、園が目指している事を達成するために必要なことを、5つのプロジェクトチーム（PT）を作り職員全員がいずれかのPTのメンバーとして、全職員が園の課題に向け力を発揮できるようにしている。プロジェクトチームは園庭環境、危機管理、園内研修、食育、地域支援のそれぞれのPTでクラスを超えた関わりを持つ事で園運営をリードしている。

園の重要な案件はリーダー会で討議して意思決定し職員会議で経過も含めて周知している

園の重要な案件や問題点への検討は、クラス間討議をした上でリーダー会（園長、副園長、主査、栄養士、クラスリーダーの計9名）で討議し意思決定をしている。決定事項は職員会議で決定経過も含めて周知し、必要に応じて全体討議を行いその場で決定する事もある。急な決定事項はリーダー会や毎日の朝礼で周知している。園長は決定事項の情報共有を課題として捉え、職員会議のルールとして、1週間までに議題を回覧、2日前までに資料を事務室の全員のトレイに配付するなど工夫し、場合によってはグループごとに直接口頭で周知する事も考えている。

2	カテゴリー2
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

職員の意見や要望、提案は園長面談時を始めクラスの意見を集める仕組みが機能している

園長は職員面談シートに基づく面談時に園運営について意見や要望も必ず聞いており、把握した課題は定期的に開催するリーダー会で確認し検討している。普段からも園長・副園長には直接意見や提案、相談を受ける事も多く、常に傾聴の姿勢で検討が必要な内容に関してはリーダー会で話し合っている。また、各プロジェクトチームはクラス代表者が運営主体となり、クラスを超えた関わりの中で効率的な話し合いを持っており、リーダー会のメンバーを含めクラスの各職員の意見を持ち寄る事で、常に職員全員の意見や要望が集まりやすく話し合いに繋げている。

地域のニーズは地域会議や地区別園長会議に参加し共通の課題の情報交換で把握している

地域の情報は、園長が地域保育施設会議に参加して、認可園１１園、認証４園の他、保育施設、公立園合わせて１９園が対象で、毎回グループ討議を行い有意義な情報交換の場となっている。５月には「職員育成について」他のテーマで意見交換し次回は１２月を予定している。また、区立地区別園長会(１１園参加)にも参加し、共通の課題や情報交換、事故事例の学びなどを共有して園内で確認もしている。毎月、区の園長会では保育や福祉の情報収集、また行政や社会福祉協議会からの刊行物で収集した情報から自園の状況に合わせて課題を検討している。

園長は今年度から3年間の中期計画を策定し事業計画に繋げて職員に周知している

園の中期計画は、今年度園長が見直しを行い、改めて今年度から3年間の計画を策定している。目指す保員園像を運営基本理念、および具体的に目指す保育園の姿を明示して実施項目に繋げている。目指す保育園の実現に向けて、保育環境、保育の質向上、危機管理、職員の自己実現、保護者対応、地域交流、子育て支援の7項目に対して3年間の実施項目を明確にしている。職員には全員に配布している業務マニュアルに入れて分かるようにしているが、詳しい説明は中期計画の今年度の実施項目を事業計画に繋げ、事業計画で園長の想いも含めて周知している。

3	カテゴリー3
	経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	◯ 非該当

サブカテゴリー2（3-2）		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	◯ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	◯ 非該当

サブカテゴリー3（3-3）

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	◯ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	◯ 非該当

カテゴリー3の講評

こどもの人権について公開保育で保育を見合い事例検討や意見交換しながら確認している

職員全員が職種に関係なくこどもに関わる人間としての心構えを意識できるように、年度当初の職員会議で服務や職員の心得、専門職としての行為、個人情報の取り扱いについて職員配付の業務マニュアルで読み合わせをしている。適切な保育が行われているか定期的に振り替える他に、園内公開保育を行いこどもの人権や関わり方について、事例検討や意見交換をしながら確認している。毎年、全国保育士会の人権擁護のチェックリストを用いて、自身の振り返りを行い、今年度は実施後に結果を集計し共通の項目を明確にして具体的な対応に繋げる予定をしている。

入園時オリエンテーションで苦情や意見を相談できる窓口を説明し玄関にも掲示している

保護者の相談や苦情の受付窓口は第三者委員の連絡先も含めて玄関に掲示し、大田区オンブズマンのポスターも掲示しいつでも相談出来る事を知らせている。入園時オリエンテーションでもプレゼンソフトで視覚的に説明している事から保護者の理解も深まっている。今まで苦情の受付はなく、意見箱等で確認した場合はすぐに対応している。第三者委員の2名は、区からお願いしている事もあり園との直接的なコミュニケーションは取っていないが、対象園として挨拶で面識を持つかメールでのコミュニケーションや園を良く知ってもらう方法の検討を進められたい。

見学会や地域支援イベント、公開保育他多くの来園者を迎え入れ開かれた園になっている

園は、保育園見学会の参加や希望に合わせた見学者が年間で100組ほど来園し、地域支援イベント参加や育児応援券での来園者、また近隣保育施設対象19園に向けて公開保育を開催案内し、多くの近隣園保育士の来園がある。さらに、保育実習や小児看護実習、中学生の職場体験なども多く受入れ、開かれた園として地域との関係づくりを強めている。実習生や職場体験者の受入れには担当職員を決め、受入れ前に面接やオリエンテーションを行い、その中で個人情報保護や留意事項について説明し、その際に書面で承諾のサインをもらっている。

4	カテゴリー4
	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	◯ 非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	◯ 非該当

カテゴリー4の講評

園のリスクを特定し対策を講じると共に安全計画を保護者とも共有し計画通り進めている

園の周辺環境から現在のリスクは、園舎前の交通量が多く危険性が高く常に保護者に注意喚起している事や園舎のフェンスが低い事や裏側には監視カメラがないので不審者侵入もリスクとして捉えている。不審者訓練は定期的に実施しているが、10月には警察職員による職員対象の不審者対応訓練実施の予定をしている。安全計画の各種訓練や安全点検は危機管理プロジェクトチームが中心に実施し、また、看護師指導の下、心肺蘇生講習や誤嚥窒息対応の講習も実施している。安全計画は保護者会で説明して玄関にも掲示し園の安全対策が分かるようにしている。

園のヒヤリハット管理は定着し今後もヒヤリの気づきを発信できる仕組みを考えられたい

安全に向けてケガ報告書管理やヒヤリハット管理を行い、看護師が統計を取り職員会議で報告する事や、他園の状況を参考にして対応策や再発防止策を考えている。ケガ報告書は大小にかかわらず全て記入する事をルールとし、発生時は朝礼で情報を共有し再発防止に努めている。事故の未然防止としてヒヤリハット管理も行い、確認の都度記録し共有する事が定着している。今後は今まで以上に、職員が日常の保育の中で感じたヒヤリの気づきを、多く発信できるような簡便な方法を考え、区の統一様式と合わせた運用で共有を深められないか一度考えられたい。

個人情報や電子媒体の取り扱いは全てルール化され園の情報管理は適切に行われている

児童調査票や個人情報、重要文書は書庫に施錠して厳重に保管している。個人情報文書の取り扱いは必ず使用管理簿に記載する事をルールとして確認している。園で使用するデジタルカメラや媒体も全て鍵付き書庫に保管し、持ち出し時には同様に使用管理簿を記入している。PCは保護者会で使用時を除いて、原則として事務室のみで使用しており、顔認証やパスワード設定によって情報の機密性を強めている。保護者に向けては入園オリエンテーションでプライバシーポリシーや個人情報の利用目的について重要事項説明書で説明し、承諾の同意書をもらっている。

5	カテゴリー5
	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	◯ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	◯ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	◯ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	◯ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況　3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	◯ 非該当

カテゴリー5の講評

園長の育成の考え方を踏まえ職員面談シートの面談時にキャリアデザインを確認している

園長の人材育成に向けた基本的な考え方は、公務員として行動や言動に留意して、保育士はこどもの事は勿論、保護者に寄り添える関係を築く事が出来るように、そして職員同士で人の意見を良く聞きコミュニケーションが取れるようにしていきたいと考えている。職員面談シートは年度の個人の業務計画や研修計画（自己啓発）を記載すると同時に自身のキャリアデザイン（めざす将来像と実現に向けたプロセス）を記載する欄があり、園長との面談時に確認している。さらに職員の経験年数や本人希望に合った職場研修の受講を計画しキャリアアップに繋げている。

園の研修機会は豊富にあり職員の専門性向上やOJT研修の知識向上などに活かしている

園内研修プロジェクトチーム（PT）は、公開保育（保育を見合う）や小人数グループの「保育を語ろう」（悩み相談や助言等）の推進を行い、「人権について」グループ討議など園内研修を企画し実施している。「保育を語ろう」は年間複数回の実施を継続しており、職員間の良い話し合いの場として定着している。また職員面談シート内の研修計画を把握し、職員の希望を一覧にして研修が受講できるように調整している。OJT研修では看護師や園内研修PTが講師の研修を年間7回計画し、区の職場研修にも参加対象者を決めて研修機会を有効に活かしている。

経営層は職員間で話し合う機会を多く作る事で相談しやすい雰囲気づくりに努めている

園では職員間で話し合える場を多く作っている事から、職場のコミュニケーションも良く職員調査では話しやすい、意見を言いやすい、相談しやすいと高い評価がある。園内研修はグループ討議方式で行い活発な意見交換が出来る事や、園内研修プロジェクトチームが企画推進する「保育を語ろう」では、少人数で日頃の悩みや助言等を語り合う機会を設けて定着している。また職員会議は司会を交代制とし、必ず若い人から話せる進行にする等いつでも話し合える雰囲気を作っている。経営層は常に傾聴の姿勢を大事にして相談しやすい雰囲気づくりに努めている。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

保育園の役割の一つとして、「全ての子育て家庭に必要な支援を提供していくこと」があり、コロナ禍前に積極的に行っていた地域支援を再開しようと考え、目標を「在宅子育て世帯への支援の拡充を図る」と定め、地域支援プロジェクトで支援の内容や計画を検討して次の取り組みを始めた。
①園庭開放日を週1回設け、門前に幟を出して開放日を知らせ予約なしで参加可能とした
②園の行事(お楽しみ会、魚の解体ショー等)への参加や、水遊びへの参加をポスターで掲示し呼びかけた。（園の掲示板、児童館、保健所、病院に掲示）
③子育て情報誌（どんぐり通信）を作成しポスター掲示先と同じ場所に設置した
取り組みの結果、一度参加された方がリピーターとなったり、友達を誘って参加したり、回を重ねるごとに参加者が増えていった。一方で離乳食講習は離乳食の時期と開催時期が合わずに参加者が少なかった事や、園庭開放は曜日が特定される事で参加できない親子もいたなど反省も残った。
今年度は、昨年度の反省や参加者の感想、意見を踏まえ、離乳食講習は開催時期をずらして2回開催や、園庭開放は毎日(月～金)利用できるように変更し、ふれあい遊びなど親子で楽しめるイベントも増やしていく。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保育所の利用の有無にかかわらず、すべての子育て家庭に必要な支援を提供していく事が保育園の役割の一つと考え、コロナ禍で中止になっていた地域支援の再開を考え、特に在宅子育て家庭への支援の拡充を図る事を目標に取り組みを始めている。進めるにあたり地域支援プロジェクトチームで支援の内容や計画を検討している。
子育て情報誌「どんぐり通信」を発行して情報を発信し、週1回の園庭開放や園の行事であるお楽しみ会や魚の解体ショー、また、夏には水遊びへの参加などポスターを掲示して参加を呼び掛けている。ポスターや子育て情報誌は近隣の児童館や保健所、病院に掲示や設置している。
積極的に実施してきた結果、一度参加された方がリピーターとなったり、友達を誘って参加したりと、回を重ねるごとに参加者が増えていったことは大きな成果と言える。一方で離乳食講習会への参加者が少なかったことや、週1回の園庭開放での制限があった事などは、参加者の意見や感想の中から反省として理由が明確になり次につなげている。
今年度は反省を踏まえ、離乳食講習会は2回時期を変えて実施する事や、園庭開放は毎日実施する事に変更し、さらに拡充している事でPDCAを良く回している。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

「こども基本法」ではすべてのこどもが個人として尊重され、その基本的な人権を保障することが基本理念であり、こどもの人権を尊重した関わりについて再確認し、自分たちの保育を振り返り適切な保育を行っていくために、目標を「「こどもの人権擁護」について学びを深め、専門性を磨き保育の質の向上を図り、こどもの人権を尊重した保育を実施する」と定めて次の取り組みを行った。
①園内研修で「こどもを尊重する保育について」参考資料を読み、職員間でディスカッションを行い、こどもの人権尊重について確認した
②事例を通して保育士の望ましいかかわり方についてグループ討議を行った
③「人権擁護のためのチェックリスト」を用いて各自、関わりの振り返りを行った
取り組みの結果、日頃よく言っていることばや関わり方など、職員一人一人が自分の保育を振り返る良い機会となった。また望ましい関わり方について全職員で共通理解し、その後の保育でより意識してこどもに関わることができ、職員間の声かけも増えチームワークが高まった。
今年度も引き続き確認できる場を設け、こどもが主体的に遊べる保育環境の充実も、保育の質の向上とこどもの人権の尊重につながると考え取り組んでいく。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

こどもの人権を尊重した関わりについて再認識して、自分たちの保育を振り返り、適切な保育を行っていくために、「こどもの人権擁護」について学びを深め、専門性を磨き、保育の質向上を図り、こどもの人権を尊重した保育を実践していく事を目標に取り組んでいる。
園内研修で「こどもを尊重する保育について」参考資料を読み、職員間でディスカッションを行い、こどもの人権尊重について確認することや、事例を通して保育士の望ましい関わり方についてグループ討議を行っている。また人権擁護のセルフチェックリストを行い、自身の振り返りも行っている。
実施してきた結果、日頃の言動や関わり方等を振り返る良い機会になったと同時に、望ましい関わり方について共通理解をしたことで意識してこどもに関わることができて良い成果に繋がっている。また副次効果として、意識してこどもに関わることは職員間で声掛けも増え、よいチームワークが高まっている。
今後も継続してこどもを尊重した保育を確認できる場を作り、こどもが主体的に遊べる保育環境の充実させることも、保育の質向上とこどもの人権を尊重していることに繋がると考えて取り組んでいることでPDCAを回している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点（○○○○）	
	評価	標準項目	
	◉ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

園の利用を希望する人々にホームページやパンフレットで保育園の情報を提供している

保育園の情報は、ホームページや見学者に配布するパンフレットに掲載している。ホームページでは、園内の施設の様子を写真で掲載したり、保育目標、行事、園の特色等を掲載し保育園の情報を提供している。見学時に配布するパンフレットには、基本情報、基本理念、保育方針、保育目標、保育園の取り組み、一日の保育の流れ、主な行事等を紹介している。また、こどもの活動の様子を園内に写真で掲示しており、見学の保護者が分かりやすいように工夫している。

保育園や子育て支援に関する情報は、関係機関と連携して情報提供している

地域の保育園の利用を希望される方や子育て家庭に向けて、「どんぐり通信」を作成し近隣の児童館、図書館、地域庁舎、家庭支援センターなどと連携し希望する方が園の情報を得やすいように工夫している。「どんぐり通信」は年6回発行しており、地域交流イベントや絵本の紹介、手遊びの紹介、夏バテ防止レシピ、虫刺され対策、赤ちゃんマッサージのやり方などの情報を記載し、園での交流イベントの参加を促すとともに、家庭でもできる子育ての情報を提供している。

保育園についての問い合わせや見学について、丁寧な対応を心がけている

園見学を年6回開催しており、希望があった場合は決められた日程に集まっていただき担当職員が園の概要を映像や冊子を使って分かりやすく説明し、園内を案内している。日程の都合がつかない場合は個々に相談し別日に案内している。見学の際には、園が大切にしていること、入園の際に準備していただくものや、お子さんの成長についてなどを説明しながら、実際に園内を案内し、保育室でのこどもと保育者の関わりなどをご覧いただいている。保護者の質問にも丁寧に対応し、園の様子を理解していただくことで入園に繋げている。

サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園前にはオリエンテーションや個人面談で、基本ルールや重要事項等を説明している

入園が決まった利用者に対しては、必要な書類一式を取りに来て頂き、面接とオリエンテーションをそれぞれ別日に実施している。オリエンテーションは園長が行い、個人面談はそれぞれの専門分野に分かれて面談を行い、定められた書式に記入している。重要事項説明書には、保育園の役割をはじめ、運営方針、保育所の概要、一日の流れ、主な年間行事、個人情報の利用目的について等、保護者が必要とする情報を簡潔にわかりやすく記載している。園として守ってもらいたいルール等も保護者に説明し、同意書にて同意を得ている。

入園当初はこどもの不安やストレスを軽減するため、個別状況に応じた対応をしている

利用開始時に保護者の要望やこどもの状況を把握し、児童票を中心とする個人記録に記載している。入園前面接で保護者の要望やこどもの状況を把握し、入園時の不安やストレスを軽減するために慣れ保育を実施している。園としての慣れ保育の期間はおおむね設定しているが、一人ひとりのこどもの状況や保護者の就労状況などを踏まえて、保護者の意向を聞きながら慣れ保育の時間や日程等を決めている。入園前の面談は経験の豊富な保育士や看護師、栄養士が行い、面談の内容によっては職員会議で全職員が共有したり、またはクラス担任で共有している。

退園するこどもや保護者が、新しい環境にスムーズに慣れていけるように支援している

保育園卒園児や途中退園児には、保護者やこどもの不安などに寄り添い、随時相談ができることを伝え、「お別れカード」をお渡ししている。カードには職員からのメッセージや「いつでも園に遊びに来てね」ということを記載し口頭でも「退園後も継続して支援できる」ことを伝えている。区内の公立保育園に転園する場合は、保護者に同意を得て児童票を転園先に引き継いでいる。区外に転園する場合は、次の保育園に引き継いだほうが良いことがあれば、保護者に口頭でお伝えしている。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13／13

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	◯ 非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	◯ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	◯ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	◯ 非該当

サブカテゴリー3の講評

こどもの育ちや保育で大切にしたいところを会議等で確認し、指導計画を策定している

こどもの育ちの記録や個別記録、個人面談記録など、こどもの状況を把握する上で必要な事項は、決められた書式に記録している。こども一人ひとりの発達状況やその経過、日々の心身の状況や生活状況など、課題の抽出と評価をクラスの打ち合わせや職員会議で明確にしながら、情報を共有している。アセスメントについては、週案や月案、年間指導計画等、週、月、期、年間の反省など、見直しをそれぞれ定められた時期に行い、保育に活かすようにしている。

日々の保育の様子が保護者にわかりやすく伝わるよう工夫している

0～2歳クラスでは、毎日の状況を連絡帳や送迎時のやりとりで把握している。園の玄関には定期的に壁新聞を掲示し、こどもたちの日々の様子や取り組みの様子など、保護者に保育の活動を分かりやすく伝えている。個人面談は年度途中に行い、保護者と、こどもの様子や成長を共有している。個人面談は通常年1回の実施だが、面談の時期を見直し、今年度は新入園児と乳児に関しては、春と秋の年2回行っている。また、定められた個人面談の日程以外でも、保護者からの要望があれば随時、園長または担任が対応している。

個別の記録は適切に管理され、職員会議等で情報を共有している

計画や個人の記録は、事務所内で適切に保管・管理され、保育に関わる職員がいつでも内容を確認できるようになっている。全体的な計画の各項目を踏まえて各クラスの年間・月・週日案・個別指導計画を作成している。職員会議・リーダー会議・クラス会議等で、園の課題及び保護者やこどもの情報などを職員で検討・共有し、職員会議では情報共有の他に、職員が参加した研修の報告を行い学び合っている。クラス会議では、こどもの情報や発達状況の共有、環境設定の見直し、月案の振り返り、クラスの課題の検討などを話し合っている。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	◯ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	◯ 非該当

サブカテゴリー5の講評

入園時に個人情報の取り扱いを説明し、保護者の意向を確認し、同意を得ている

個人情報の取り扱いについては入園時のオリエンテーションで、園内での個人情報の具体的な取り扱いも含め、保護者に丁寧に説明をしている。個人情報の利用目的については、児童調査票や連絡帳、行事等のこどもの写真の掲載、園内写真の掲示などの取り扱いや転園に際する区立保育園間個人情報の受け渡し等、大田区立保育園のプライバシーポリシーに基づいて、保護者に説明し同意を得ている。また、保護者が園の行事等で撮影したビデオや写真などの取り扱いについても注意喚起している。

こども一人ひとりの気持ちに寄り添い、その子にとって最善の支援を行うよう努めている

身につけてほしい羞恥心についての取り組みは、こどもの発達のプロセスや個性および自尊心を大切に育まれるよう職員間でも共有認識を持ち対応している。日常の保育の中では、トイレの排せつ時に他児から見えにくいように手作りパーテーションを設置したり、植物の鉢植えを置くなどの配慮をしている。衣服の着脱は、全裸にならないように上下を別々に脱ぐように指導している。看護師からはプライベートゾーンについての話をし、こども自身が意識を持てるようにし、自分の身体を他人に見せたり触らせたりしてはいけないことを理解できるようにしている。

会議や研修を通じて知見や意識を高め、全職員でこどもの人権に対する理解を深めている

集団生活の中でも個人を大切にし、こどもの気持ちを受け止めていく保育と、保護者の思いに寄り添いながら支援できるような保護者対応を目指して、職員間で周知徹底が図られている。職員会議の中で不適切保育の事例をもとに「不適切な保育について」を話し合い、自身の保育を振り返っている。園内研修では「こどもの人権擁護とは」「人権に配慮した保育とは」の話し合いを重ね、職員一人ひとりの人権に対する意識の向上を図りながら、こどもへの声かけや保育を振り返り、大森西保育園で大切にする保育の共通認識を深めている。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

マニュアルや手引書はいつでも確認できるように整備し、職員の共通理解に努めている

保育園業務マニュアルをはじめ、日常業務を行う際に必要なマニュアル、手引書は常時事務所に設置され、手順を見直したい時などはいつでも閲覧可能となっている。一定水準のサービスの提供を行うために、保育園基準マニュアルは定期的に区が見直しを行い、保育園は保育園基準マニュアルや園独自のマニュアルを活用し、必要なものは職員に個別配布し理解が深められるよう工夫している。また、チェック表などを用いながら安全な保育運営に努めている。

学び合いを通して、こどもが主体的に遊べる園庭環境や室内環境の向上に繋げている

職員は「主体的に遊ぶ環境」を学び合い、園庭環境の質向上や室内環境の向上に向けて取り組んでいる。「主体的に遊ぶ」についての文献を読み合い、話し合いをし、職員の思いを統一しながら環境づくりをしている。園庭や室内の環境を定期的に振り返り見直すことで、こどもの変化に合わせた環境づくりができている。園庭の環境は砂場やタイヤ、遊具などのほかに、職員が花を植えたり、花壇の手入れをしたり、野菜の栽培をすることによって、身体的な面とともに、季節の花を楽しむなど情緒的な面のこどもの育ちも大切にしている。

職員の意見や保護者の声を、運営の見直し、改善に活かせるように取り組んでいる

保護者の意向や意見は、毎日の送迎時の対話や保護者会の中で把握したり、行事後の保護者アンケートの感想や意見から把握している。行事終了後の保護者アンケートやご意見などは、必要に応じて回答を記載したものをお便りでフィードバックをするなどしながら、次年度の行事や保育の計画にも反映している。また、保護者からのご意見、要望の内容によっては、職員会議等で検討し、改善が必要なものは迅速に対応している。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36／36

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

一人ひとりの生活環境や発達過程を把握し、保育に活かしている

一人ひとりのこどもを取り巻く生活環境や発達過程は、入園時の発達過程を知る書類一式、日々の連絡帳、毎日の送迎時の保護者との対話、個人面談等で発育・発達・家庭状況を把握している。園での様子は各クラスの日誌に記録するほか、乳児（0～2歳児）は個別の連絡帳で家庭と園の情報を共有している。また、保護者からの要望やご意見等は、対応した職員が遅早ノートに記載し職員間で情報の共有をしている。必要に応じて園長が直接対応し、保護者との信頼関係の構築に努めている。

こどもの思いを大切にするとともに、互いを認め尊重する心が育つよう援助している

こどもが過ごす環境や主体性について会議や園内研修で話し合い、園全体で学びを深めている。主体的な環境については職員全員が課題と捉え、こどもたちが遊びたい玩具に手が届き、自分で選べる環境や、「やりたい」という思いが自発的に持てるような環境に配慮している。土曜日の合同保育での異年齢児保育や、日々の異年齢児との関わりでは、自分と異なる存在を知り、遊びの中で友だちの存在を認め、楽しく遊びながら交流する環境を整えている。そういったこども同士の関わりの中で、互いを思いやり、尊重する心が育つよう見守り援助している。

こども同士のトラブルは、発達段階を考慮して互いの気持ちを尊重して対応している

発達の過程で生じるこども同士の喧嘩やトラブルは大切な経験と捉え、保育者は双方のこどもの声に耳を傾け、一方的な対応にならないように、こどもの思いを受け止めたうえで、発達や年齢に応じた支援を行っている。トラブルが生じたときには、傷ついてしまったお子さんのケアも大切にしているが、傷つけてしまったお子さんのケアも同じように大切に考え丁寧に対応している。こども同士の関わりの中で生じたトラブルは、双方の保護者にも理解してもらえるよう送迎時に丁寧に伝えている。

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	◯ 非該当

評価項目2の講評

登降園時の保護者との対話や連絡帳で、こどもの様子を確認し共有している

登園時には、保育者がこどもの顔色、表情、機嫌等、健康観察をして保護者に口頭で健康状態等、こどもの様子を聴き取り、必要事項を各クラスの遅早ノートに記載し職員間で共有している。こどもの安定した園生活のためにも、送迎時の保護者とのコミュニケーションは大切な機会と考えており、必要事項を簡潔に伝え、聞き取りができるように心がけている。それ以外にも、乳児クラスは連絡帳でもこどもの様子や健康状態を確認している。

一人ひとりの発達に応じた基本的な生活習慣が身につくように支援している

全体的な計画のもと、基本的な生活習慣が身につくよう、看護師や栄養士による健康教育や栄養指導を各年齢に合わせて行っている。食事のマナーや食具の持ち方、プライベートゾーン、生活リズムについてなど個人差や年齢に合わせて無理なく身につくよう担任と看護師、栄養士が共有し進めている。特に3・4・5歳児は安全や健康、体の大切さなどの指導計画を立案し、担任、看護師とともに、こどもたちが分かりやすく理解できるよう工夫している。実施した様子は写真を用いて掲示し、保護者にも共有している。

こどもの年齢や体調等に配慮しながら午睡時間を設定し、生活リズムを整えている

年長児は就学に向けて12月から徐々に午睡時間を短くし、1月からは午睡をなくしている。ただし、個々の状況によっては仮眠したり横になるなどの対応をしている。午睡時間は休息をとる時間と捉え、無理に寝かしつけるのではなく、こども一人ひとりの生活リズムを把握し、体を休めるということを大切にしている。SIDS予防として、0歳児は5分、1・2歳児は10分、3・4・5歳児は30分ごとに呼吸確認し一人ひとりの状態を午睡チェック表に記録をしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	◯ 非該当

評価項目3の講評

こどもの意欲を尊重した遊びの空間の設定や、遊び込める環境に配慮している

保育室内の環境では、玩具はこどもたちが安全に主体的に選べるよう配置し、遊びに集中できるよう友だちと一定の距離感を保てるような空間づくりを意識して行っている。乳児クラスは部屋を棚やパーテーションで区切り、落ち着いて遊ぶことができるよう配慮している。5歳児は保育室の一角をカプラ等の制作コーナーにしており、こどもたちが継続して作り上げることができるようにするなど、こどもの満足感や達成感に配慮している。他の子から見えにくいよう一人で落ち着いて遊びたい気持ちにも寄り添った環境も工夫している。

日々の活動を通して社会性、言語力、表現力などを育んでいる

保育者はこどもの気持ちを汲み取り言葉にしたり、相手に伝わるように仲立ちをしながら、こども一人ひとりの言葉に丁寧に応答し、言葉による伝え合いを楽しめるように配慮している。手遊びや絵本の読み聞かせ、日常会話の中で、正しい言葉、肯定的な言葉、優しい言葉を意識したやり取りしている。日々の活動は楽しむことを基本とし、集団遊びや伝承遊び、表現活動など友だちと一緒に行う中で、ルールを守る大切さを知り、自分の気持ちを調整する力を育んでいる。幼児クラスは発表会で劇遊びを披露するなど、行事を通して言葉に対する感覚を培っている。

戸外遊びを楽しみ、自然に触れ合い体を動かすことで季節の移り変わりなどを感じている

安心して散歩や園庭遊びができるように、安全に配慮しながら戸外活動を行っている。園庭遊びでは乳児と幼児の遊ぶ時間や場所が重ならないでのびのびと活動できるよう配慮したり、四季の季節の移り変わりを感じられるような活動を取り入れている。園庭遊びや散歩では、春にはお花見をしたり、夏には虫取り、秋には落ち葉や木の実を拾うなど、心地よい風の匂いや、木の葉の色の変化、葉が落ちてくる様子など、季節や自然の変化を肌で感じられるように、積極的に戸外での活動も取り入れている。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	◯ 非該当

評価項目4の講評

日常保育との連動性を大切に考え、こどもが積極的に楽しく参加できるよう工夫している

行事については日常の保育を基本に、こどもの日々の活動からプログラムを決定している。昨年まで行っていたからではなく、こどもの発達や興味に合わせた行事を考えている。行事によっては乳児と幼児別々に会を催し、それぞれの年齢が無理なく参加できるよう配慮している。こどもたちが自然に行事への意欲が高まるように、保育者が中心になって準備をするのではなく、劇遊びの大道具や小道具など、必要な準備はこどもが制作したり、こども同士の話し合いから決定し、こどもたちが協力して作り上げていくことを大切にしている。

こどもの興味ややる気を引き出し、やり遂げた喜びが体験できるように取り組んでいる

当日の行事に参加することだけではなく、行事に参加するまでの気持ちの変化や、友だちと協力して準備をする過程も大切にしている。一人ひとりのこどもが主体的に行事に関わり、自分で考え皆で協力してできたという達成感を味わえるよう、こどもたちの興味ややる気を引き出している。運動会では、こどもが事前準備を手掛けたり、5歳児が当日司会をしたりなど、決められた担当を責任もって取り組み参加することで、やり遂げた喜びや達成感を得られるような体験ができた。

行事の取り組みをクラスだより等で保護者に伝え理解と協力が得られるように努めている

保護者には年間行事計画を年度当初に配布し、1年間の大まかな行事予定をお知らせしている。保護者が行事を通じてこどもの成長を感じられるよう、当日のこどもの姿だけではなく、取り組みの過程、こどもたちの様子など、写真を用いて掲示物やクラス便りで伝えている。また、行事に対しての理解や協力を得られるよう、行事のねらいやこどもの成長の様子が伝わるように工夫している。保護者参加の行事後には、アンケートで感想やご意見を収集している。アンケートのご意見からの気づきや改善点などは、次年度の行事に活かしている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	◯ 非該当

評価項目5の講評

保育時間が長いこどもが安心できるよう環境を整え、関わりにも配慮している

延長保育時間は18時15分～19時15分となり、保育時間が長くなるこどもたちが保護者を待つ時間を安心して過ごせるよう、一気に合同保育を進めるのではなく、時間帯によって乳児と幼児に分けたり、18時15分以降に乳児、幼児合同になるなど、ゆったりとした空間に配慮している。一日の疲れが出る時間であることを考慮して、疲れが見られる場合は、マットを敷いて自由に寝転んだり、好きな時にくつろぐことができるような環境を提供し、精神的にも身体的にも安らかに過ごせるような工夫に努めている。

異年齢児のこどもが安心して楽しく過ごせるよう工夫している

延長保育時間を利用する園児は、少人数のため、落ち着いた環境づくりを重視し、こどもが寂しい気持ちや不安を感じているときは、保育者とスキンシップを図りながら、情緒の安定を図れるようにしている。また、日中には使用しない延長保育用の玩具を提供している。玩具の種類も年齢に合わせたものを用意し、安心して遊べるよう配慮している。延長保育では、少人数であるため、遊びの空間や遊具もゆったりと落ち着いて遊ぶことができ、年上の子が年下の子を面倒見てあげたり遊んであげたりしながら、異年齢児の関わりも充実した時間を過ごしている。

保育形態の変化はあるが、職員間でしっかり引き継ぎこどもの一日の状況を把握している

保育時間の長いこどもが戸惑わないように、延長保育での人の動きや流れを職員間で統一している。延長保育では、日中の子どもの生活リズムや心身の状態、体調の変化などがあった場合は、延長保育の担当職員が把握できるよう引き継ぎに配慮している。保育形態が変わってもできるだけこどもが安心して過ごせるように、いつも決まった非常勤職員が保育に入っている。職員は、日中のこどもの様子やクラスの申し送り事項を、保護者に伝える際に漏れがないよう努めている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	◯ 非該当

評価項目6の講評

落ち着いた雰囲気の中でこどもが楽しく食べられるような配慮がされている

こどもの年齢や身体の成長に合わせた高さのテーブルや椅子を使用している。1歳児は低月齢児の椅子がひじ掛けがあり、高月齢児の椅子はひじ掛けがないなど、同じ年齢であっても成長に合わせたものを使用している。また、乳児は身体の成長に合わせて足台や背あてを準備し、安定した姿勢で食べられるように配慮している。幼児の担任は、こどもと一緒に指導食を喫食し、こどもと同じ食事を取りながら、美味しさを共有したり、食具の使い方や食べ方などを指導しながら食育にも繋げている。

栄養のバランスや味付けに配慮した献立を作成し、食物アレルギーへの対策も講じている

アレルギー対応、宗教食対応が必要なこどもは入園面接時に把握し、適切な対応を行っている。アレルギー児がいる場合は、できるだけ他の子どもたちと同じように提供できるよう、食材選びを工夫し、見た目の違いから差別感のないように配慮している。献立は1か月に2サイクルで提供しているが、1回目の喫食状況があまりよくないときには、2回目は多少味を変えるなどの食べやすい工夫をしている。献立は栄養バランスや味付け等に配慮し作成しているが、日々のこどもの喫食状況や月1回の給食会議の振り返りなどを参考に献立の改善にも努めている。

こどもたちに食への感謝や食材への興味を促す食育活動が行われている

こどもたちと相談しながら、ベランダや園庭の花壇で育てたい野菜を決めている。3歳児はピーマン・オクラ、4歳児はナス・キュウリ、5歳児はトマト・オクラ・サツマイモなど、日々水やりなどの世話をしながら成長を確認し育てる喜びを体験している。収穫した野菜は栄養士がこどもの目の前で調理をしたり、5歳児は調理体験をすることで食への関心を高めている。また、近隣の魚屋さんが来園し、魚の解体ショーをこどもたちの目の前で実演し、こどもたちが魚に直接触れたり話を聞くことで、命の大切さや食への感謝も学ぶ機会を設けている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	◯ 非該当

評価項目7の講評

健康の大切さが分かり、安全習慣が身につくよう年齢に応じた保健指導を行っている

乳幼児に育みたい健康な心と体、自分自身で健康で安全な生活を作り出す力を養えるよう年間保健計画を立案し、健康教育を実施している。年齢に応じた保健指導や安全に生活できるよう指導、援助に努めている。看護師による、手洗いやうがいの大切さ、排せつ時の拭き方、和式トイレの使い方、感染症予防の方法やプライベートゾーンについて、命の大切さについて等を指導している。年1回、警察署員による交通安全教室、防犯についての体験指導も実施し、危険から自分を守る事の大切さを学ぶ機会を設けている。

医療機関との連携体制を整え、こどもの健康維持に向けた取り組みを行っている

こども一人ひとりの健康状態は、入園時に提出された各種書類や嘱託医による定期健康診断、歯科検診で把握し、日々の健康観察等でこどもの健康維持に努め、こどもたちが健やかに園生活を送れるよう配慮している。保育園での薬の取り扱いや感染症などについては、入園時に配布した重要事項説明書に詳細を記載している。抵抗力の弱い乳幼児をお預かりする施設として、病気回復後の登園についても、登園時の注意事項や登園届の有無など、細かく説明をし協力を仰いでいる。

様々な情報を保護者に伝え、こどもの健康維持に向けた取り組みを行っている

入園時の説明で、感染症予防対策や乳児突然死症候群の予防対策について話をしたり、保健だより、掲示等で季節の疾患や感染症、健康維持について保護者に情報を発信している。午睡時には、年齢ごとに定められた時間で呼吸確認を行い、顔色、体調の変化に気を付けながらチェックを行っている。必ず仰向けで寝るようにし、保育室内の室温・湿度の調節、体温の上昇や咳などにも留意し、こどもの少しの体調変化もお迎え時の保護者に伝えるなど、健康維持に努めている。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	◯ 非該当

評価項目8の講評

保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう支援している

入園時に各家庭の個別事情や保護者の仕事、生活等の状況を把握し、入園後も日々の情報交換や定期的な面談から状況を把握している。また、個々の保護者の事情や家庭の状況の変化などは、個人面談や送迎時の会話などで、保護者の不安や要望を聞き取り、必要に応じて全職員またはクラス担任が共有し、職員全体で支援を行えるように努めている。保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう、日々の送迎時などのコミュニケーションを大切にしながら、保護者との信頼関係の構築に努めている。

貸し出し絵本を実施し絵本を通して親子で触れ合う機会を設けている

保護者がお迎え時に、こどもと一緒に絵本を選び、会話を楽しむことができるよう、玄関正面の廊下に絵本貸し出しコーナーを設けている。絵本は貸し出しも行っており、棚の上に毎月のおすすめ絵本のシリーズを掲示し、保護者に紹介している。貸し出しの際には、保護者が備え付けの用紙に絵本名と名前を記入すれば、自由に借りることができる。絵本コーナーは利用が多く、親子で絵本を読む姿も頻繁に見られ、家庭でも、絵本を通じて親子の会話や関わりが深まるよう支援している。

保護者の意向を把握し　子育て支援や保育の改善に繋げている

運動会やお楽しみ会、保育参観・参加の行事では保護者同士の交流が持たれるほか、様々な機会で保護者の要望や意向をアンケートや対話から聞き取り、把握できるように努めている。行事後の保護者アンケートの要望や意見などは、必要に応じて職員間で検討し、保育の改善や保護者の子育ての支援に繋げている。個人面談は年1回以上実施しているが、保護者の子育ての悩みや不安を察知したときには、その都度、職員間で共有し、担任や園長が個別面談を実施している。0歳児は年度初めに離乳食講習会を企画し、試食をしたり作り方を学ぶ機会を設けている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	◯ 非該当

評価項目9の講評

地域の公共施設を利用し、こどもたちの体験・経験の機会を広げている

5歳児クラスは毎月1回定期的に図書館を利用し、お話会に参加している。公共施設や公園など、地域の方も利用する公共の場では、こどもたちもマナーを守り、地域の方と挨拶を交わすなど、地域の人々との交流を図っている。園は、地域の方との交流やふれあいは、こどもの成長にとって大切な取り組みだと認識し、こどもたちが体験する様々な人々との関わりは、交流する楽しさや社会性を育む貴重な機会となっている。

こどもたちが様々な人々と触れ合い、交流を持つ機会を広げていくことが期待される

園のイベントや毎日の園庭解放で、近隣の方と交流したり、防災活動の一環として、園で起震車や煙体験などを行う際には、近隣の保育園に声をかけて一緒に体験するなど、交流を図っている。小学生との交流や地域との交流は再開しつつも、コロナによって途切れたものも多い。この機会に地域との連携、交流も再度見直し、さらなる改善、向上に期待したい。

地域資源を活用しながら、こどもたちが様々な体験の機会を広げている

幼児は、警察署員による交通安全教室や地域の交通安全教室にも出かけ、地域のこどもたちとの交流もしている。交通安全教室では、戸外での危険や交通ルールについて、道路の歩き方、横断歩道の渡り方などを学んでいる。起震車や煙体験なども経験しながら、こどもが自ら危険を回避できるような力を育めるようにしている。地域の資源を活用しながら、地域とのこどもや人々との触れ合いの中で、こどもの生活の幅を広げている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	在宅の子育て世帯の支援や近隣保育施設と学びの共有など積極的に地域支援を行っている	
内容①	園は地域との連携・支援を事業計画に明示し重点の活動として、地域支援プロジェクトチームを中心に情報提供やイベント企画、見学対応を実施している。地域の情報誌「どんぐり通信」は年に6回発行し児童館や保健所、病院に設置している。園庭開放は昨年の反省を踏まえ、今年度は通年開催に変更することや「保育園に遊びに来ませんか」として水遊びや離乳食講習、保育園で遊ぼう、お楽しみ会他などを企画して多くの申し込みがある。また近隣園19園に向けて公開保育を行い、昨年同様多くの保育士の来園を見込み意見交換や学びの機会を予定している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	プロジェクトチーム体制を作りチームワークで全職員が課題に向けて力を発揮している	
内容②	園はプロジェクトチーム（PT）体制を作り園の課題の抽出や解決に向けてクラスを超えた活動を推進している。各PTは、全員参加とし昨年度の経験者を1名残し、メンバーを各クラスから1名ずつ選出して構成しており、PTでの話し合いの内容や進捗状況は、他の職員にも周知しながら職員全員で取組む意識を持てるようにして良いチームワークで進められている。プロジェクトは園庭環境、危機管理、園内研修、食育、地域支援の5つのPTに加え大きな行事もPT化して活動し、いずれも計画的に進めることで全職員が園の課題に向けて力を発揮している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	こどもが食に興味を持ち、楽しんで食べることができるような取り組みを工夫している	
内容③	調理室の前には「エプロン通信」として、季節に応じた食の情報や栄養士からのアドバイスを写真付きでわかりやすく掲示をしている。乳児の保護者会では簡単な離乳食の作り方やポイントなどのお便りを配布して情報提供をしている。こどもたちは、栽培活動や年齢に応じたクッキング活動を体験することで、自然と食への関心や興味が深まっている。また、近隣の魚屋さんに鮭の解体ショーの実施を依頼し、幼児は魚に触ったり、さばくところを見たり、解体部位を観察しながら命の大切さや感謝する気持ちを学んでいる。	

《事業所名: 大森西保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育実践を積み上げ、主体的に遊ぶ環境を学び合い、園内研修や職務の専門性を活かした取り組みで、保育の質の向上を目指している
	内容	園内研修や職員会議の中で、「主体的に遊ぶための環境」や「遊びから生活への切り変わり」「主体的な保育とは」「保育を語る」等のテーマで話し合い学び合っている。保育の中ではこどもたちが主体的、自発的に遊びに取り組めるように、保育室内の環境を整え、遊具の配置や遊び込むためのコーナーの設置に工夫している。環境空間は、こどもの身体の成長や運動機能の発達も考慮し、年齢に合わせた空間となっている。こどもが落ち着いた生活の中で様々な事象に関心を持ち、自発性や主体性を発揮できるよう、園庭の環境や保育室の環境の充実に努めている。
2	タイトル	日常保育との連動性を大切に考え、日々の活動の中で、こどもの年齢、発達に応じた様々な表現が楽しめるようにしている
	内容	行事は日常の保育との連動性を大切にし、行事を通して育んでほしいことやねらいを職員間で共有し計画している。年齢や発達に応じてこどもが友だちと一緒に自由に表現を楽しめるよう工夫している。行事に参加するまでの気持ちの変化や、友だちと協力して準備をする過程も大切にしている。一人ひとりのこどもが主体的に行事に関わり、自分で考え皆で協力してできたという達成感を味わえるよう、事前準備に関わる事でこどもたちの興味ややる気を引き出している。運動会当日は5歳児が司会を行うなど主体性を育んでいる。
3	タイトル	健康の大切さが分かり、安全習慣が身につくよう年齢に応じた安全教育や保健指導を行っている
	内容	乳幼児時期に育みたい健康な心と体、自分自身で健康で安全な生活を作り出す力を養えるよう、年間保健計画を立案し、看護師による「歯科指導」「うんちのはなし」「プライベートゾーン」「脳が目覚めるための生活リズム」などの保健指導を計画し実施している。日常の保育の中でも、手洗いやうがいの大切さ、排せつ時の拭き方、感染症予防の方法や命の大切さについて等を指導している。幼児は、警察署員による交通安全教室、横断歩道の安全な渡り方や危険回避の方法など体験指導も実施し、危険から自分を守ることの大切さを学ぶ機会を設けている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	1年後の園の移転を踏まえて、年度末に園の取組みに対する総合アンケート実施の仕組みを今から検討し、移転後に繋げることを期待したい
	内容	保護者会や行事終了後にはアンケートで感想や意見を収集し、内容は全てを纏め保護者会で報告やクラスだよりで対応も含めて提示している。また、保護者会や個人面談は、事前に紙面で意見を確認することや、日々の送迎時に担任が意向を聞くこともあり、内容によってはクラス打ち合わせやリーダー会ですぐに検討し対応している。今回の利用者調査では数多く貴重な意見が集まった事を踏まえ、行事後のアンケートに加え、年度末に園の取り組みに対する総合アンケートの実施を1年後には園の移転を予定しており移転後の意見収集も踏まえた検討を期待したい。
2	タイトル	実施項目を明確にした事業計画に園の課題に向けた重点の取組みであるプロジェクトチーム活動も加え、職員と再度共有することに期待したい
	内容	事業計画は中期計画の今年度実施項目と繋げて、重点課題である保育の質の向上、在宅子育て世帯への支援の2点を明確にして実施事項を具体化している。また重点の項目も分かりやすく、年度当初の職員会議で事業計画の内容を説明するとともに、園長の考えや心構えを伝え職員全員で共有している。なお、園の課題解決に向けた重点の取り組みである5つのプロジェクト活動も、役割やねらい、実施計画を事業計画の項目に加えて明示し職員全員と再度共有する事が望ましい。半期のプロジェクト活動の取り組み状況の確認を踏まえ事業計画への反映に期待したい。
3	タイトル	福祉避難所や応急保育所の設置時の対応は職員の理解が深まり、改めて園の事業継続について点検も含め職員の理解を深めることに期待したい
	内容	事業継続計画（BCP）は詳細化され職員に周知し、事務室内でいつでも確認できるようにしている。園は福祉避難所の対象園として適宜訓練を行い、多くの職員は応急保育所の担当園に向かい従事することの理解も深まってきた事から、園長は改めて園の事業継続について職員全員の理解を深める事にシフトチェンジしようと考えている。現在、BCPの内容の見直しは危機管理プロジェクトメンバー中心で行っているが、職員全員から意見を聞く事や、保護者にも取り組みを案内する事、地域に向けてBCPを地域防災に繋げる事も含めて進める事に期待したい。